
rail

季樹

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

r a i l

【Nコード】

N 3 9 3 4 A

【作者名】

季樹

【あらすじ】

一度は逃げようとした現実。だけど、結局僕らはどこかに逃げだす勇気もなかった。

アスファルトがみるみるうちにその色を変化させていく。さつきまで嫌になるくらい晴れていたというのに……。

「早く！こっち、こっち！」

少し先に行く葉が大げさに手招きをしていた。どうやら、いい雨宿りの場所を見つけたようだ。後を追いかけて俺も走る。

「はぁ……雨降るなんて聞いてないよー。」

「なに言ってるんだ、天気予報見なかったのか？一時的に雨になるって言ってたぞ。」

「えー、じゃあなんで涼くん傘持っていないのー？」

「それはーだな……」

そう、確かに天気予報は見た。だけど出掛けには持ってこなかった。空は雨が降るとは思えないほどに晴れていたから。

「どうせ、出かけるときには晴れてたからとかいうんでしょ？」

「わかってんなら、聞くんじゃねえよ。」

「やっぱり。」

去りきらない夏に、この雨は少し肌寒い。

着ていたシャツを燕にかけてやる。これでも少しはましだろう。

「早くやまないかな。」

「すぐやむって」

「根拠なーい」

「お前なあ……」

夢を見ていた……。一番楽しかった頃の夢。

ぼんやりと天井を見つめながら、無意識のうちに左手を掲げる。

白く残った指輪の跡は、あれが夢ではなかったことを証明してくれる唯一の証拠。

あいつに進むべき道があるように、俺にも走るべきレールがあった。そんなもの構わないと反発して、互いだけを信じて飛び出したけれど――

”ボクラハ カイナラサレタ トリ

ジブンノチカラデハ イキテイケナイ ”

結局、栞は進むべきに道に進路を戻して、俺は脱線してしまった車輪をレールの上に戻した。

今までの事はすべて夢だったのだと、自分たちに言い聞かせた。理解できなくても、納得がいなくても、そう考えることでしか感情を押さえる事ができなかったのかもしれない。

「もう、二度とこんな風に会うこと、ないんだね……」

「ああ……もう、ない。」

「バイバイ。」

「じゃあな。」

「……………ありがとう。」

「ありがとう。」

「涼一、こちらが武井商事の平松社長だ。」

「この度は、ご婚約おめでとうございます。」

あれから数ヵ月。俺は今、嬉しくも無いのに笑顔で”ありがとうございます”等と言っている。

これが俺の前に敷かれたレール、そしてこれから俺が走り続けていく道。

「おめでとうございます。」

「ありが……とうございます。」

そこには変わらぬ栞の姿があった。ただ違うことは、その隣にいるのが俺ではなく、別の男だと言う事。栞もまた、進むべき道を偽りの笑顔で歩んでいる。

「それでは……」

「ええ、ごゆっくり。」

”ボクラハ カイナラサレタ トリ

カゴノ ソトニハ デラレナイ”

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3934a/>

rail

2010年12月19日02時04分発行